

鳥取県米子市

いずみ かみ きょう まえ い せき
泉上経前遺跡

2007. 3

財団法人 米子市教育文化事業団

序

鳥取県西部地域の米子市淀江町周辺は、北に雄大な日本海を望み、南に秀峰大山を控え、美しい自然環境に恵まれた地域でもあります。また、古くから先人が生活をしてきた遺跡の宝庫としても知られております。

当事業団では、このような遺跡地帯の一角を中電プラント株式会社の委託を受け、KDDI（株）携帯電話米子泉基地局設置工事に伴い、泉上経前遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、古墳時代中期の終わりから後期の初頭を中心とする竪穴住居跡等を検出し、当時の集落跡の一端を垣間見ることができる貴重な成果を得、調査結果を報告書としてまとめることができました。

本書をまとめるにあたり、多大な御協力をいただきました地元の皆様をはじめ、ご指導いただきました方々、その他関係各位に対し心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

2007年3月

財団法人 米子市教育文化事業団

理事長 小林道正

例 言

1. 本報告書は、KDDI（株）携帯電話米子泉基地局設置工事に伴い、平成18年度に実施した、米子市泉上経前に所在する泉上経前遺跡の埋蔵文化財発掘調査記録である。
2. 発掘調査は、中電プラント株式会社の委託を受け、米子市教育委員会の指導のもと財団法人米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室が行った。

調査体制

調査主体 財団法人米子市教育文化事業団

理 事 長 小林 道正

埋蔵文化財調査室

室 長 長谷川明洋（米子市教育委員会文化課課長）

調査担当 主任調査員 笹尾千恵子

嘱託職員（調査補助員）秦 美香

3. 本報告書で使用した方位は磁北、標高は海拔標高である。
4. 本報告書に掲載の地形図は、国土地理院発行の1/25000 地形図「淀江・米子」の一部を使用した。
5. 本報告書の挿図のうち遺構の浄写は秦が、遺物の実測・浄写は埋蔵文化財調査室で行った。遺構・遺物写真、執筆、編集は笹尾が行った。
6. 出土遺物・図面・スライド等は米子市教育委員会に保管されている。
7. 本書の作成に当たっては、以下の報告書、文献を参照した。

1978年『青木遺跡発掘調査報告書Ⅲ』鳥取県教育委員会

1981年『須恵器大成』田辺昭三 角川書店

1989年『百塚第1遺跡』淀江町教育委員会

1993年～1999年『百塚遺跡群Ⅱ』～『百塚遺跡群Ⅶ』淀江町教育委員会

1995年『百塚第5遺跡、小波狭間谷遺跡、泉上経前遺跡』鳥取県教育文化事業団

凡 例

1. 調査段階での遺構名は、略号を用い、検出した順番に割り当てた。
2. 本報告書における遺物の記号は、S：石製品とする。
3. 本報告書における遺構図は1/80、1/100で、遺物図は1/2、1/4、1/8の縮尺で掲載した。
4. ピット、土坑の寸法は（長軸×短軸－深さ）mで表した。
5. 遺構挿図中のセクション・エレベーションの基準線標高はL= の記号で表した。
6. 土器実測図のうち、須恵器は断面黒塗で、石器の実測図で磨面は←→で表した。
7. 方位は磁北を示す。
8. 遺物に記載されてある遺構名は、発掘調査時の遺構名である。
9. 遺物には泉上経前遺跡の略号として「IZK2」を使用し記入した。

目 次

序
例 言
凡 例
目 次

第1章 調査の経緯	1
第2章 位置と環境	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	
第1節 竪穴住居跡	4
第2節 掘立柱建物跡	7
第3節 溝状遺構	8
第4節 まとめ	8

図 版 目 次

図版1	1. 調査前 全景（北より） 2. 調査前 全景（西より） 3. A区 北側土層断面（北より） 4. A区 西側土層断面（東より） 5. 竪穴住居1 北側土層断面（北より） 6. 竪穴住居1、掘立柱建物2 完掘（南より） 7. 溝3、掘立柱建物1 完掘（西より） 8. 溝1 完掘（南より）
図版2	1. 竪穴住居2 土層断面（西より） 2. 竪穴住居2、溝2・溝5 完掘（北より） 3. 竪穴住居2 P1 検出状況（東より） 4. 竪穴住居2 P5 内遺物出土状況（東より） 5. 竪穴住居2 Po4・S3 出土状況（北より） 6. B区 完掘全景（西より）
図版3	1.～6. 竪穴住居2 遺物

挿 図 目 次

第1図	調査位置図
第2図	周辺遺跡分布図
第3図	遺構配置図
第4図	竪穴住居1 遺構・遺物図
第5図	竪穴住居2 遺構図
第6図	竪穴住居2 遺物出土状況・遺物図
第7図	掘立柱建物1・2 遺構図
第8図	溝1 遺構図

第1章 調査の経緯

米子市泉字上経前周辺には、泉上経前遺跡をはじめとして百塚古墳群を含む百塚遺跡、小波狭間谷遺跡などの埋蔵文化財が数多くある。発掘調査区内は、KDDI（株）携帯電話米子泉基地局設置工事に伴い、米子市教育委員会が試掘調査を行った結果、遺跡が分布していることが確認された。

これを受け、中電プラント株式会社は米子市教育委員会と協議し、財団法人米子市教育文化事業団に発掘調査を委託し、埋蔵文化財調査室が発掘調査を担当した。

現地調査は、平成18年4月3日から同年4月22日までを行い、調査面積273m²を調査した。調査は、北側半分（A区）の表土及び廃土を南側調査区へ置き、北側調査区終了後、南側半分（B区）の表土及び廃土を調査終了箇所へ移動する方法を取った。重機による耕作土除去を行い、その後人力により遺物包含層を取り除き、遺構検出作業を行った。

現地調査終了後、整理作業を進め平成18年度末までに報告書作成作業を行った。



第1図 調査位置図

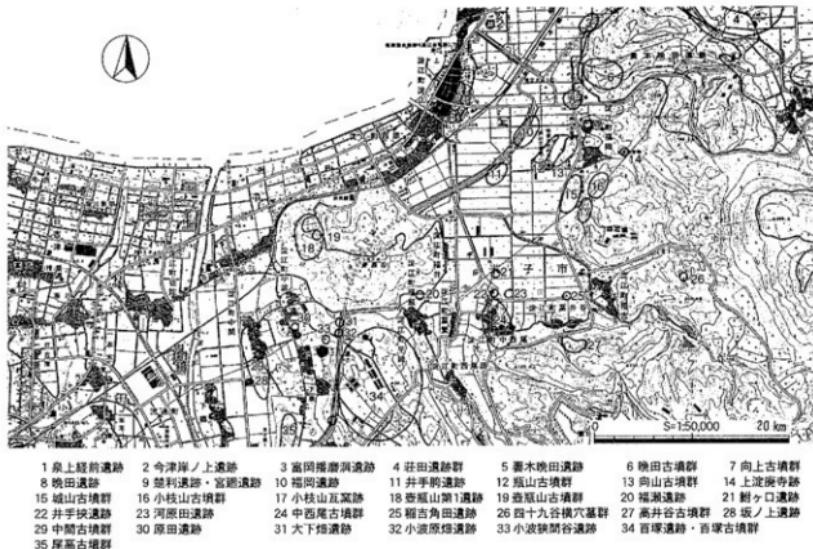
第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鳥取県は、東は兵庫県、西は島根県、南は岡山県・広島県と県境を接し、北は日本海に面する東西126km・南北61.85km、面積3,507km²の自然に恵まれた県である。

1871年の廢藩置県以前、因幡と伯耆に別れていた地域は、東部（鳥取市）、中部（倉吉市）、西部（米子市・境港市）を中心とする3地域からなり、一級河川の千代川（東部）、天神川（中部）、日野川（西部）等により形成された鳥取平野（東部）、北条・羽合平野（中部）、米子平野（西部）が見られる。

米子市は、江戸時代より商都として栄えてきたが、平成17年には淀江町と合併し、人口約150,000人、面積132.3km²の地方都市となった。中国山地最高峰を誇る大山（標高1,729m）の北西麓に市街地が広がり、旧淀江町は、宇田川・天井川によって形成された淀江平野を囲むように町並みが広がる。泉上経前遺跡は米子市泉字上経前にあり、旧淀江町と境を接する壺瓶山（標高113.7m）の麓の、緩やかな斜面に位置する。付近には、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡や古墳群等が数多く確認される遺跡地帯である。



第2図 周辺遺跡分布図

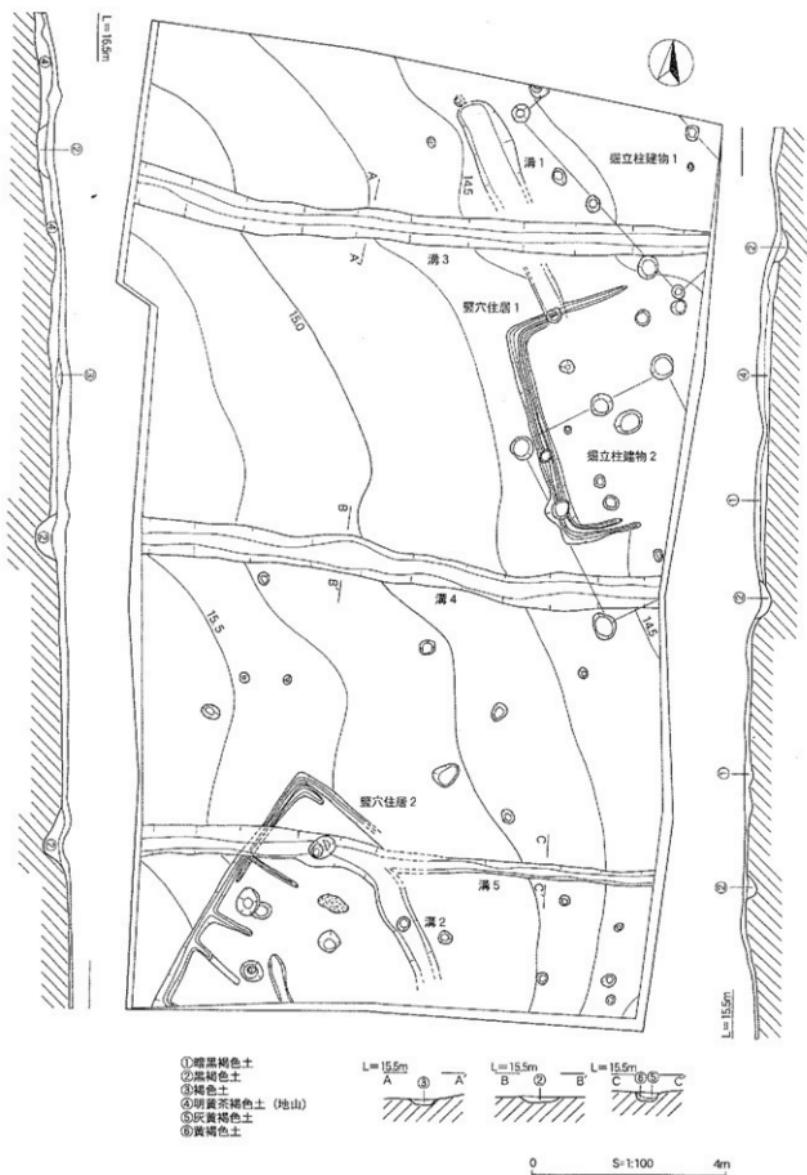
第2節 歴史的環境

大山山麓では、米子市泉中峰遺跡、同淀江町小波、大山町門前第2遺跡から旧石器時代のナイフ形石器が、米子市奈喜良遺跡、同淀江町中西尾等では縄文時代草創期の有舌尖頭器が発見されている。縄文時代早期に入ると、大山山麓の上福万遺跡で押型文土器を伴う集石墓等が見つかり、早期末から前期には、淀江平野で、渡り上り遺跡から石錘や黒曜石剥片が多量に出土した。隣接する鮎ヶ口遺跡からは、曾畠式土器が出土した。

弥生時代前期の遺跡には、長径約135mと推定されるV字状の環壕をもつ今津岸の上遺跡が、前期から中期にかけての代表的な低湿地遺跡である久目久美遺跡がある。中期には、線刻絵画土器が出土した稻吉角田遺跡が、後期には米子市・大山町にまたがる国史跡妻木晚田遺跡で、四隅突出型墳丘墓や環壕、大規模な集落跡が確認されている。青木遺跡、福市遺跡は後期以降も続く大規模集落遺跡である。

古墳時代前期に入ると、妻木晚田遺跡では、集落数が激減する。この時期の集落跡の様相は淀江・米子平野周辺では明確でなく、今後の調査の成果がまたれる。後期の集落跡としては、淀江平野を一望できる百塚遺跡群があげられる。前期古墳には、晚田山11号墳、石州府29号墳等があり、中期前半に竪穴式石室から内行花文鏡や甲冑の出土した上ノ山古墳が、後半に入ると、形象埴輪の盾持人等が出土した井出挿3号墳等が確認される。後期になると、石馬が出土したと伝えられる石馬谷古墳、複式石棺式石室をもつ岩屋古墳、金銅製透彫冠が出土した長者ヶ平古墳など大型前方後円墳が築かれる向山古墳群などが見られる。

白鳳時代の代表的な仏教寺院として、仏教壁画や塑像片が出土した淀江町の上淀廃寺跡があげられる。上淀廃寺跡の伽藍配置は、金堂の東側に南北に2塔を配した全国でも類例を見ないものである。



第3図 遺構配置図

第3章 調査の成果

調査区の廃土の置き場の都合上、北側半分を調査A区とし、南側半分を調査B区として調査に取りかかった。このため、調査地区をA区・B区の2区に分けた呼称とする。

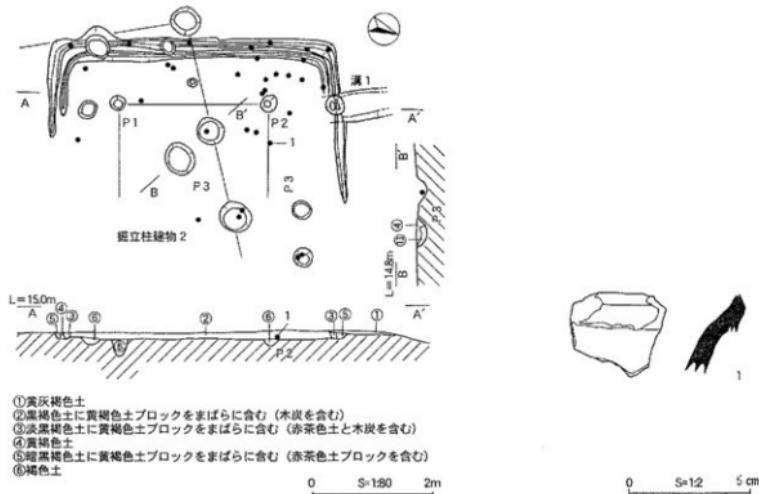
第1節 竪穴住居跡

竪穴住居1（第4図、図版1）

調査A区の西寄りで検出した。遺構上面は後世の耕作により大きく削平されており、住居の東側壁は検出できなかった。このため遺構の全容は明らかではないが、西壁の検出状況から、形態は方形または長方形を呈していたと推定される。規模は南北長4.8m、東西残存長約3.0mを測る。壁は残存高0.3mである。柱穴はP1 (0.25×0.25-0.3) m、P2 (0.25×0.25-0.18) mの2個を検出したことから、主柱は4本柱の構造であったと推定される。住居中央でP3 (0.50×0.56-0.20) mを検出した。P1とP2の柱穴間距離は、2.5mを測る。また、西壁と北・南壁の内側の一部で幅約0.1mの側溝が二重に巡ることが確認できたことから、住居の拡張がおこなわれたと推定される。

遺物は、床面の北西隅に多く見られたが、いずれも土師器片と須恵器片であった。壺口縁部（1）は住居北側の床面で検出された。口縁端部、稜ともに欠損している。断面はセピア色をしているが作りにシャープさを欠く。これら出土した遺物と住居の形態、周囲の遺構より、竪穴住居1は5世紀後葉・古墳時代後期後半頃に営まれたと推定される。

住居の西壁と床面で掘立柱建物2の柱穴と推定されるビットを検出したが、掘立柱建物に伴う遺物の出土が無く、竪穴住居1と掘立柱建物2の新旧関係は不明である。また、竪穴住居1より新しい時期に、住居の北壁を壊して溝1が作られていることが確認された。



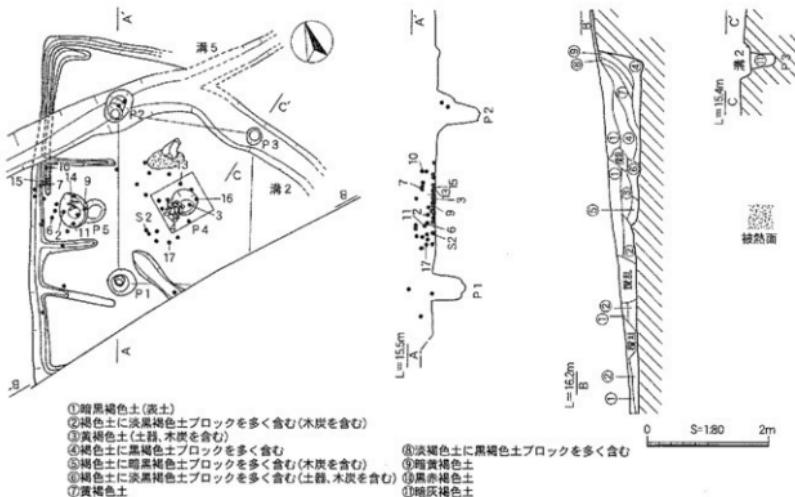
第4図 竪穴住居1遺構・遺物図

竪穴住居2（第5・6図、図版2・3）

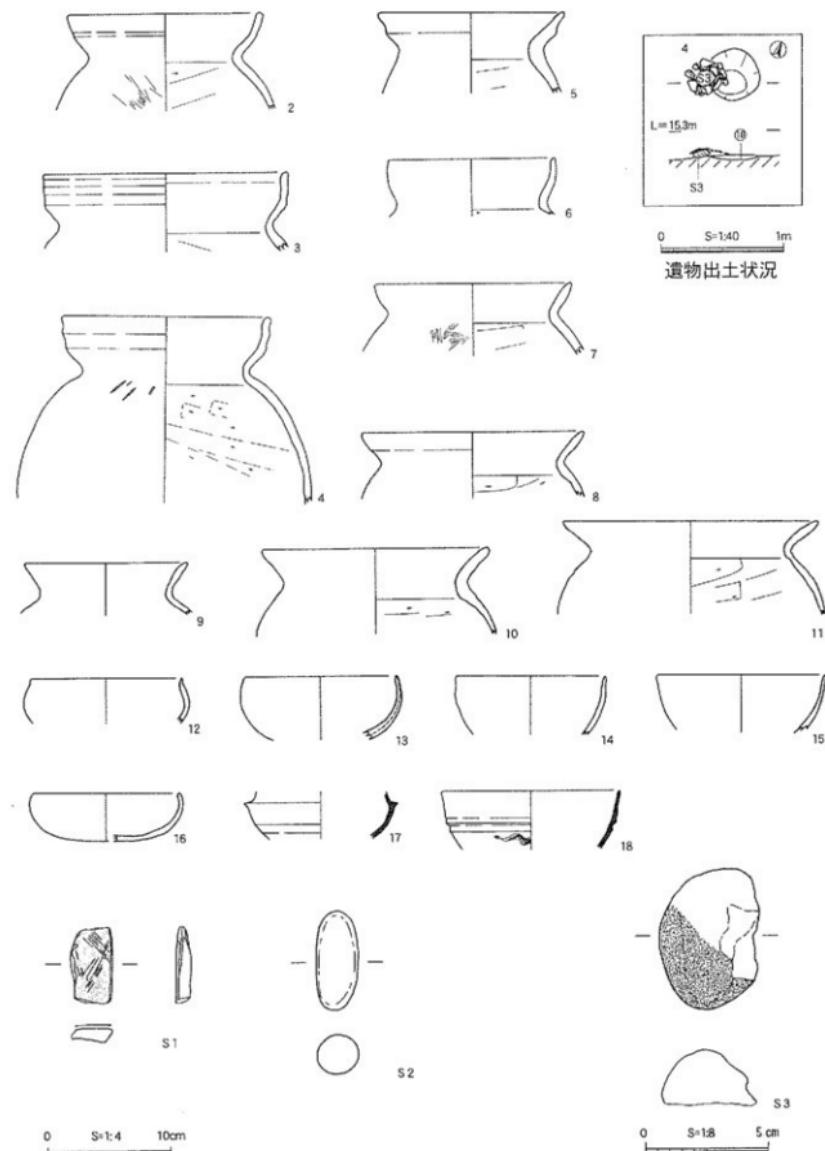
調査B区の西寄りで検出した。遺構上面は後世の耕作により東側が大きく削平されており、住居の東側壁は検出できなかった。このため遺構の全容は明らかではないが、南壁・西壁の検出状況から、形態は方形または長方形を呈していたと推定される。規模は南北長約6.0m、東西残存長約4.0mを測る。壁は残存高約0.8mである。柱穴はP1 (0.44×0.44-0.6) m、P2 (0.6×0.4-0.78) m、P3 (0.3×0.3-0.6) mの3個を検出したことから、主柱は4本柱の構造であったと推定される。柱穴P3は、遺構上面を溝2で壠されている。住居中央ではP4 (0.44×0.4-0.06) mを、西壁側の中央ではP5 (0.6×0.44-0.6) mを検出した。P4の北寄り床面では被熱面を確認した。また、P5を挟み、幅約0.05~0.1mの仕切り溝3本を検出した。さらに、西壁の内側の一部で幅約0.1mの側溝が二重に巡る。これらのことから、住居の拡張がおこなわれたと推定される。

遺物は、P4の西側肩で火を受けた台石(S3)の上に、口縁部を上にした甕(4)を被せた状態で検出した。その周辺では甕(3)、高坏(13)、塊(16)、須恵器有蓋高坏(17)、敲石(S2)が出土している。P5の上面周辺では甕(2・6・7・9・10・11)と高杯(14)が出土している。(5・6)は小型の甕で、(5)は稜が僅かに残る。内面のケズリ調整は頸部から始まる。(2・3・4)は甕で、(2)は胴部にハケ目が残る。(4)口縁部ナデ。稜はナデによってつくりだされ、肩部に工具痕が見られる。内面のケズリ調整は頸部から始まる。(7・8・9・11)は「く」の字状口縁の甕で、口縁端部を摘み出して終わる。胴部は外方へ開く。内面のケズリ調整は頸部から始まる。(12・14・15)は塊状の坏をもつ高坏である。(12)は口縁端部が僅かに外へ開く。(17)は須恵器蓋坏身、(18)は須恵器無蓋高坏の坏部で、2段の鈍い稜と波状文が巡る。(S1)は砥石で、火を受けた痕跡が見られる。

これらの遺物は、概ね陶邑MT47型式、土師器で百塚II、青木IX(新)期に併行することから、竪穴住居2は古墳時代中期末から後期初頭・5世紀末から6世紀初頭に営まれた遺構と推定される。



第5図 竪穴住居2遺構図



第6図 竪穴住居2遺物出土状況・遺物図

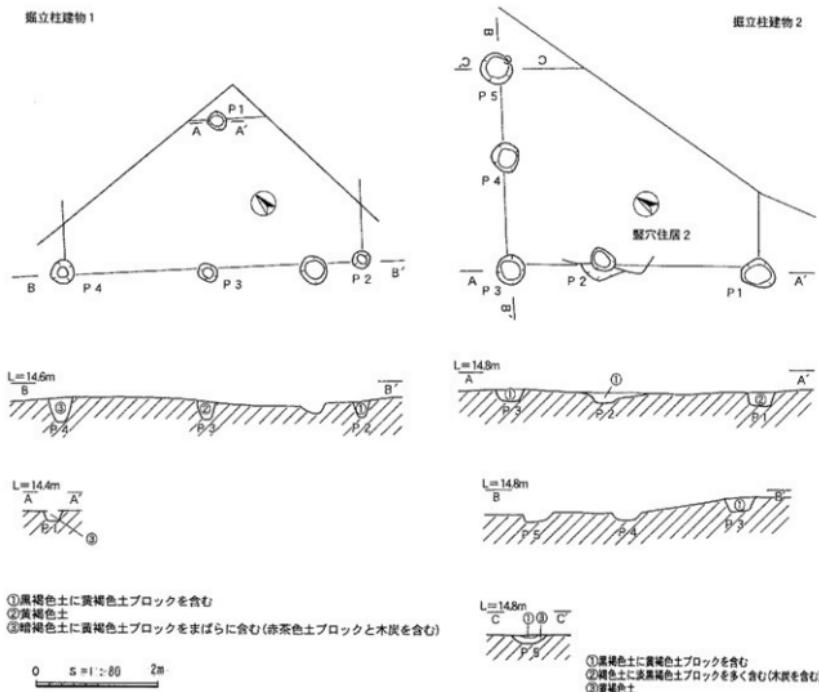
第2節 挖立柱建物跡

掘立柱建物1（第7図、図版1）

調査A区の北東隅で検出した。P1～P4のピットを確認したことから、梁行1間×桁行2間の掘立柱建物と推定される。規模は $2.5 \times 5.0\text{m}$ を測り、柱間は約2.5mである。柱穴は外径0.3～0.4m、底径0.16～0.2m、深さ0.2～0.4mを測る。主軸はN-39°-Eをとる。遺構内より遺物の出土はなかった。建物南西側で竪穴住居1と切り合うが新旧関係は不明である。また、隣接する溝2との新旧関係も不明である。掘立柱建物1の時期は不明である。

掘立柱建物2（第7図、図版1）

調査A区の北東隅で検出したP1～P5のピットを確認した。北東側が未調査地区のため規模は明確ではないが、掘立柱建物1のようだから、梁行2間×桁行2間の掘立柱建物であると推定される。規模は $3.4 \times 4.0\text{m}$ を測り、柱間は1.6～2.4mである。柱穴の外径0.4m、底径0.16～0.2m、深さ0.3～0.38mを測る。主軸はN-34°-Eをとる。遺構内より遺物の出土はなかった。竪穴住居2と切り合うが新旧関係は不明である。掘立柱建物2の時期は不明である。

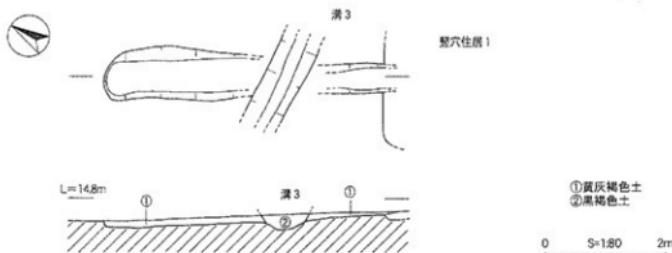


第7図 挖立柱建物1・2 遺構図

第3節 溝状遺構

溝1（第8図、図版1）

調査A区の北東隅で検出した。残存長4.6m、幅0.5~0.8m、深さ0.16mを測る。遺物の出土はなく時期は不明である。南側で竪穴住居1と切り合うが新旧関係は不明である。また、溝3が溝1を東西に切るように延びる。



第8図 溝1遺構図

溝2（第5図、図版2）

調査B区の南中央隅で検出した。竪穴住居2と溝5と切りあう。幅0.5m、深さ0.2mを測る。遺構内より遺物の出土はないが、竪穴住居2の柱穴P3を壊す形で作られていること、溝5に切られていることから、竪穴住居2よりも新しく溝5よりも古い時期の遺構と推定される。

溝3~5（第3図、図版1・2）

調査区の傾斜に添って、東西に延びる。幅0.2~0.8m、深さ0.18~0.3mを測る。溝から溝までの幅がほぼ均一であることと、周囲の畑地のありようから、溝3~5は畑地の境界を示す溝であると推定される。

第4節まとめ

1995年、一般国道9号米子道路工事に伴い発掘調査された泉上経前遺跡では、縄文時代の土坑2基、古墳時代後期の竪穴住居3棟、時期不明土坑1基、ピット多数が検出された。これらの遺構が検出された緩やかな丘陵の西側を今回調査し、遺跡の広がりを確認することができた。遺構の様相から縄文時代以後、古墳時代後期以前の生活の痕跡は確認できなかったが、古墳時代後期・5世紀後葉以降集落が形成されていくことが再確認できた。また、今回の調査範囲以西に広がる台地上にも同時期の居住域が眠っていると推定される。

さらに、泉上経前遺跡の東側の谷を挟んだ丘陵上には、古墳時代後期の大集落群・百塚遺跡群が営まれていることから、泉上経前遺跡も百塚遺跡群の支枝丘陵の一つととらえ、同時代に暮らした人々の住居域の広がりと展開を検討する必要があろう。

図版



1. 調査前 全景（北より）



2. 調査前 全景（西より）



3. A区 北側土層断面（北より）



4. A区 西側土層断面（東より）



5. 穫穴住居 1 北側土層断面（北より）



6. 穫穴住居 1、掘立柱建物 2 完掘（南より）



7. 溝 3、掘立柱建物 1 完掘（西より）



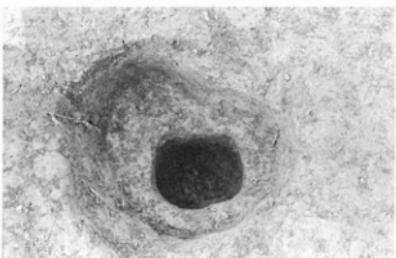
8. 溝 1 完掘（南より）



1. 竪穴住居2 土層断面（西より）



2. 竪穴住居2、溝2・溝5 完掘（北より）



3. 竪穴住居2 P 1検出状況（東より）



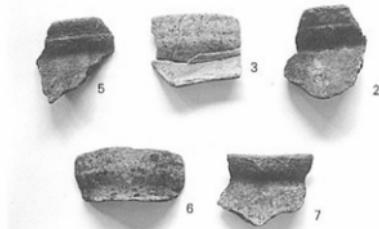
4. 竪穴住居2 P 5内遺物出土状況（東より）



5. 竪穴住居2 Po 4、S 3出土状況（北より）



6. B区 完掘全景（西より）



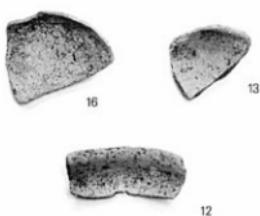
1. 坎穴住居2 遺物



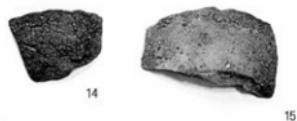
2. 坎穴住居2 遺物



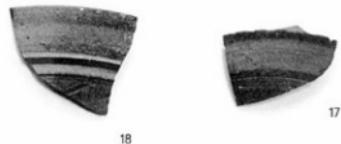
3. 坎穴住居2 遺物



4. 坎穴住居2 遺物



5. 坎穴住居2 遺物



6. 坎穴住居2 遺物

報告書抄録

ふりがな	いづみかみきょうまえいせき						
書名	泉上経前遺跡						
副書名							
卷次							
シリーズ名	(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	55						
編著者名	笛尾 千恵子						
編集機関	財団法人 米子市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室						
所在地	〒683-0033 鳥取県米子市長砂町935-1 TEL・FAX 0859-22-7209 E-mail : maibun@sanmedia.or.jp						
発行年月日	2007年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	市町村 コード	北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
いづみかみきょうまえいせき 泉上経前遺跡	とうとりほんまなごし 鳥取県米子市 いづみかみきょうまえいせき 泉上経前	31202	35度 26分 04秒	133度 25分 03秒	平成18年4月3日 ～ 平成18年4月22日	273m ²	KDDI (株)携帯電話米子 泉基地局 設置工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
いづみかみきょうまえいせき 泉上経前遺跡	集落跡	古墳時代 後期	竪穴住居跡	2	土師器、須恵器 台石、蔽石、砥石		
			掘立柱建物跡	2			
			溝状造構	2			
			ピット				

(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書55

泉上経前遺跡

2007年3月

編集・発行 財団法人 米子市教育文化事業団
埋蔵文化財調査室
〒683-0033 鳥取県米子市長砂町935-1
電話・FAX (0859) 22-7209

印 刷 国頭印刷 有限会社
〒689-3402鳥取県米子市淀江町淀江690
TEL (0859) 56-2117 FAX (0859) 56-2119
